

短歌の基本的なルール

① 短歌の唯一のルールは、「五・七・五・七・七」
1文字＝1音」と考える。

「あゝん」の50音は、1文字＝1音

例：乾電池↓5音 キンカン↓4音

音をのばす長音(ー)は1音として数えます。

例：ルーレット↓5音

小さい「っ」(促音)は1音として数えます。

例：抹茶↓3音

例外

よつおと

拗音「きゃ・しゃ・ちゃ」2文字だが、1音で数えます。

例：きゅりり↓3音 キャンディー↓5音

② 季語は入れても、入れなくても良い

季語に明確なルールはなく、入れても入れなくてもよい。上達してきたら、使うことも視野にいれてみましょう。

③ 定型におさまらない。

五七五七七のリズムで詠む短歌ですが、時にそのわきに収まらない「字余り」になることがあります。字余りは、ルール違反ではありません。その表現の方が自分の気持ちにじっくりくる場合は、字余りにしてもかまいません。歌いたいことや気持ちを優先して決めましょう。

ありふれた日常の風景に発見や感動をもたらしてくれる短歌。言葉とリズムによる楽しさを味わってみましょう。

